

第2回富士山地区分科会

2017年3月6日開催

『仰ぎ見る富士山～

伝えたい世界遺産富士山の価値と魅力』



サンフロント21懇話会（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行会長）は3月6日、富士市のホテルグランド富士で第2回富士山地区分科会を開催した。富士山の世界遺産登録4年目に入ったことをふまえ、御殿場市で開催した第1回富士山地区分科会でのテーマ「富士山を真の観光地にするには」を踏襲し、さまざまな専門家より真の観光地となるための可能性や課題、世界遺産富士山を地域がどのように活用し、具体的に地域の活性化へとつないでいくかを提言してもらった。

主催者を代表し、北村敏廣静岡新聞社代表取締役専務は「サンフロント21懇話会の活動は

23年目を迎えた。富士山が世界遺産に登録されて早いもので4年となるが、登山のマナーや環境問題、観光振興の取り組み等課題は山積している。本日の分科会を通し、皆さまとともにさらなる地域の盛り上げを図ってまいりたい」とあいさつ。伊東哲夫懇話会運営委員長は「私ども地元の住民にとって富士山は空気のような存在。逆に言えばつい富士山の価値や美しさを忘れがちになる。そういう意味で、お膝元である私どもが富士山の価値を忘れないためにも、こういうシンポジウムを時々開いていくことが大事である」と力を込めた。

主催者代表あいさつ



静岡新聞社代表取締役専務

北村敏廣

富士山が世界遺産に登録されて早いもので4年となります。以後さまざまな取り組みが行政機関、民間、各団体で進んでまいりましたが、登山のマナー、環境問題、観光振興など課題は山積しております。

今年の富士山の日に開かれたフェスタ2017では、12月の県富士山世界遺産センターの開館にあわせ、静岡山梨両県が連携し、富士山の普遍的な価値を後世に発信していくことを確認しました。本日の基調講演は富士山が見える地域の図面化・限界の地の確認・総合科学としての山岳展望学の発掘をライフワークとされる日本地図センター常務理事・地図研究所長の田代博氏にお願いしました。またパネルディスカッションでは富士山の遺産申請を含め、長く世界遺産条約の仕事に関わってこられた筑波大学の稲葉信子氏、地域遺産の具体的な活用を進めておられる日本旅行業協会の中尾謙吉氏、富士山を愛する女性写真家の植田めぐみ氏に、それぞれのお立場から富士山が真の観光地となるための課題についてお話いただきたいと思います。

サンフロント21懇話会の活動は23年目を迎えました。今年は文豪と伊豆をテーマに文化庁日本遺産への登録を目指しております。こうした活動が継続できることも会員の皆さまのご支援のおかげであります。改めて感謝を申し上げますとともに、これからのご協力をお願いする次第です。

懇話会運営委員長あいさつ

私ども懇話会は今回が2016年度最後の行事であります。総会に始まり、伊豆地区分科会、東部地区分科会、全体会、そして富士山地区分科会となります。昨年は御殿場地区で分科会が開催され、今年は富士山の寓話でおなじみ竹取物語の舞台である富士市で開催となりました。駿河と甲斐、どちらの国から見る富士山のどちらが美しいかという論争があるように、御殿場裾野地区と富士富士宮から眺める富士山のどちらが美しいかという論争もあります。しかしその前提は、いずれにせよ富士山が日本一であるということ。どちらに転んでも大差のない議論であり、富士山はそこに歴然と存在しているわけです。

富士山が世界遺産になり4年が経ちました。これまで2月23日を富士山の日に制定し、富士山世界遺産センター開設が決まるなど様々な施策が施されてきました。とはいえ、私ども地元の住民にとって富士山は空気のような存在で、つい富士山の価値や美しさを忘れがちになる。その意味で、やはりお膝元である私どもが富士山の価値を忘れないためにも、こういうシンポジウムを時々開いていくことが大事だと思っております。

本日は他の角度から眺める富士山の見方について田代様からお話いただこうと思います。パネルディスカッションでは富士山に関わる様々な専門家の方々から、富士山をどう活用したらよいか、富士山を地元活性化のためにどのように役立てたらよいかご議論いただき、当懇話会の東部地区活性化策の参考にさせていただこうと考えております。

本日の分科会が皆さまにとって有意義な一日となりますよう祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



懇話会運営委員長

伊東哲夫

基調講演

「見力の山」富士山の魅力

講師：一般財団法人日本地図センター
常務理事・地図研究所所長

田代 博氏



交通事故のリハビリで登山を始めた 自称「富士山遠望士」

今日は、富士山の地元の皆さまにケンカを売るような話になるかもしれません。というのも富士山は静岡と山梨2県だけのものではなく、本当に日本中の多くの方が富士山に熱い思いを持っているからです。私自身は自称『富士山遠望士』を名乗っており、地図を通してわかる富士山の魅力をお話したいと思います。

私は1950年に広島県で生まれ、神奈川県の高校に25年、筑波大附属高校に17年勤め、2014年に高校教諭を退職した後は大学の非常勤講師やNHK Eテレの高校地理教育関連番組の講師も務め、日本地図センターというところに就職しました。そもそも山に関わるきっかけは、最初に勤めた高校で教師になりたての頃、交通事故に遭い、そのリハビリで山を登り始めたのがきっかけです。「田代は富士山を眺めるだけだろう」とよく言われますが、一応、登山愛好家を自認し、43年かかって昨年、日本百名山を登りきりました。

昨年は東南アジアの最高峰、マレーシアのキナバル山に登りました。入山制限している4000m超の山で高山病に苦しみましたが、なんとか登れました。

富士山の3776mという高さは絶妙です。キリマンジャロは誰でも行くというわけにはいきませんし、ヨーロッパの最高峰モンブランも4800mを超え、素人には手に負えない。しかし富士山の場合は、幸か不幸かサンダル履きでも登れます。よくテレビでタレントさんが登頂達成感をアピールされているように、頑張れば誰でも登れて、しかも日本列島のほぼ中央に位置する山です。

今日は富士山をモチーフにしたネクタイを締めましたが、残念ながら製造元は山梨県です。

山梨は絹の産地なんですね。静岡県側から見た富士山の絵柄もあって、芸が細かくてお茶畑の右側に宝永山がちゃんと描かれています。

私は車の運転免許を持っていないので助手席で写真を撮ることが多いのですが、今、撮りためているのは富士山標高ナンバープレート3776です。駐車場等でこのナンバーの車を見つけると、持ち主に「なぜあなたはこのナンバーを付けているのですか？」と聞いて回っています（笑）。このように富士山グッズというのはキリがないため、テーマを決めてコレクションするようにしています。

紙の地形図がピンチ

日本地図センターについて少しだけご紹介させていただきます。日本国土地理院が作る日本を複製し、元売りしている組織です。そこで昨年、地図倶楽部という会員制のサークルができ、センター発行の情報誌『月刊地図中心』を公開しています。同誌は2010年4月には富士山の世界遺産登録に関する特集も組んでいます。地図倶楽部はシルバー世代向け優遇制度もありますので関心のある方がいらしたら、ぜひご入会ください。

今日お越しの皆さまは紙の地形図に馴染んでいらっしゃる世代だと思いますが、「紙の地形図」という言い方は、昔はありませんでした。今はパソコンのディスプレイやスマホの地図を見る人が増えて来たからです。国土地理院の紙の地形図を実際に買われる方は非常に少なくなっているのではないのでしょうか。1981年は年間910万部発行されていた紙に地形図は2015年には65万部、今まもなく出る最新の数字では50万部を切ってしまうだろうといわれ、最盛期の10数分の1という状況です。

地図が売れなければ日本地図センターもやっていけません。私も今までは地図は安ければ安いほ

どいいし、タダで使えるならありがたいと思っていたのですが、地図センターがなくなってしまったら困りますし、価値ある情報にはお金をささなければならぬと思うようになりました。

そういうことで、日本地図センターで発行する紙の地形図をぜひこれからも活用していただきたい。コーヒー1杯より安いので多くの方に使っていただきたいと思っています。

全国を席卷したニュース 「福島から見た北限の富士」

静岡新聞でも書いていただいたとおり、今年1月17日、日経以外の全国紙で「福島から富士山が見えた」と取り上げていただきました。北限の富士は、今まで日山という福島県の山から撮っていたんですが、そこから9km遠い花塚山—富士山からは308kmから離れた場所から撮影できました。

きっかけは2010年、地元紙の福島民報に、「富士山の北限は花塚山か？」というタイトルで私の調査活動が比較的大きく掲載されたことでした。これを受けて地元登山愛好家が撮影に臨んだのです。

写真に映ったものがまぎれもなく富士山であると証明するには、カシミール3Dという地図ソフトが必要で、今回、斎藤さん、大槌さん、菅野さんという3人の登山愛好家が撮った6点の写真で検証しました。フォトショップで調整し、カシミール3Dに落とし込むと、通常では見えてこないものが見えてきます。係数を変えてみると明瞭に見えてきます。2016年11月に斎藤さんが撮った写真は、ちょうどいいことに剣ヶ峰が見えたんですね。大槌さんは2011年に、菅野さんも2013年に撮っていますが、まだまだ明瞭ではなく、この先チャンスがあるだろうと機会を待っていたようです。

この人たちは山仲間でありライバルでもありました。昨年12月に連絡をいただき、1月15日に「明日16日にメディアに発表する」とお伝えしたとき、それならば、今まで3人一緒に登山する機会がなかったから一緒に登ろうということになった。花塚山はそんなに高い山ではありませんが福島の北にあり、この時期は雪山です。雪が深く途中でやめようと思ったそうですが、幸い晴れて、3人一緒に万歳している写真をメディアに提供していただきました。

1月18日にはNHKのNC9で放送してもらい、私もインタビューで「31年前に富士山の可視マップというのをパソコンではなく電卓で作り、そ

れ以来ずっと追究し続けたが、実証される日が来るとは思わなかった。それでもこの人たちがチャレンジしてくれた」と答えました。最初に誰が撮影に成功するか先陣争いもあったようですが、3人は仲間でありライバルでした。地元の人たちから「あんなの富士山じゃないよ」と言われ続けてきても、それをさせるエネルギーを持つのが富士山です。どういう気持ちで花塚山に登っていたかという質問に、菅野さんは「いつも撮れると思って登っていた」と答えていました。

斎藤さんはNC9でもメインで登場しました。「心折れそうなこともあった」「回数を重ねているからといって必ず見えるという保証はない」「どんなことでもそうだが熱中すると、ふと別の自分が“何の意味があるのか？”と嘯くこともあった」と答えていました。

大槌さんは2011年にすでに撮っていました。本当だったら彼が遠望写真の一番の記録者になるはずですが、本人には「もっといい写真が撮れるはず」という思いがあったのでしょうか。それでも「俺が一番最初に撮ったんだ」と自己主張することなく、3人仲間として取材を受けたということに、私もジーンとしました。

実は6年前の2011年1月21日に「ワンダフル東北」というNHKの東北6県ローカル番組で〈富士よ姿を見せてくれ—富士遠望の北限に挑む〉という特集で斎藤さんたちのチャレンジを紹介していました。3月中旬には全国ネットに載る予定で、私も取材を受けていましたが、ご承知のとおり3・11があって全国放送はされませんでした。

花塚山の地元川俣町では役場に写真パネルを貼ったり、ゆるキャラの小手姫様がPRしてくれたり、まさに町おこしに300km離れた富士山を活用しています。川俣町エリアはどこも300km離れていますから、まさに町を挙げての富士遠望です。とてもよく出来た町の広報誌はネットで見ることも出来ますので、ぜひご覧になってみてください。

日本人の3分の1が、 富士山が見える場所に住んでいる

“見える限界”の考え方ですが、遠くなれば小さくなるのが遠近法の基本です。と同時に地球の丸さを考慮しなければなりません。100kmを超えるようなところになると、やっかいなのは地球の丸さのみならず光の屈折度合も加わってきます。地球の半径7364km—実際は6370kmですが、大気密度の違いによって光が屈折するため、地平線

近辺を通る光は直線ではなく実際には浮き上がって見える。そのことを考慮しなければ、遠くの富士山を見る時、写真と正しく一致しない。係数を変えろと言ったのはそういうことです。

そんな考え方で31年前、半年かかって手作業で可視マップを作りました。当時は福島のことなど念頭になく、こんなものを作って何になるのかなあといいながらも電卓で一生懸命計算し、『岳人』という山の雑誌の1986年に掲載してもらいました。

そのころからパソコンを使って山岳展望に取り組んできました。見える山の名前を明らかにするということですね。もしかしたらご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、実業之日本社から『展望の山旅』という本を3冊出し、編集部から「次は富士山が見える一番遠い場所はどこか紹介してほしい」と言われました。富士登山の本はたくさんありますが、どこからどう見えるということを定量的に調べた本はなかったのです。

当時の計算では、地球の半径を考慮した係数が足りなかった部分もありますが、その後、カシミール3Dが登場し、簡単に計算できるようになり、47都道府県の中で20都府県から見えることがわかりました。別のソフトを対応させると約4000万人、日本人の約3分の1が、富士山が見えるところに住んでいるということになります。

世界197カ国の中で、首都から最高峰の山が見える、またこれだけ多くの国民が最高峰を見ることができるのは日本だけです。アメリカはアラスカに最高峰があり、中国もチョモランマです。その意味で可視マップはいろいろなことを考える材料になりますので、さまざまな場所で活用していただけたらと思います。

プラタモリ人気を支えるカシミール3D

高さのあるものは何でも可視マップにできます。ある時期から問い合わせが増えたのは東京スカイツリー。山形県と福島県の県境からも見えるのです。関東ではほとんど話題になりませんでした。大阪のあべのハルカスも見える範囲を計算できます。高さのあるものは何でも可能です。

それを可能にするのがカシミール3Dで、無料で使えるソフトです。地形データは国土地理院のものを使えば無料ですから、ちょっと面倒かもしれませんが、解説書は図書館でDVD付きのものを借りてインストールすれば経済的にも便利だと学生たちに紹介しています。NHKのプラタモリ

がなぜ人気かといえば、地形を可視化しているからです。それもカシミール3Dの功績だと思います。

ちょっと自慢をすると、カシミールの解説書には「山野望氏にお世話になった」とありますが、これは私のパソコン通信時代のペンネームで、当時「山の展望と地図のフォーラム」というのを主宰していました。このフォーラムが実は初めて公の場で「2月23日は富士山の日」と宣言したのです。ネットで日本記念日協会を検索していただければわかると思います。

カシミールという言葉は「カンタン」「素人」「みんなで」「ルンルンで」の頭文字をとったものです。古典的なおやしギャグの表現ですが(笑)だまされたと思って使ってみてください。国土地理院が自分たちの地形データを使って有益な活動をしている団体やソフトに〈電子国土賞〉を授与しており、その第1回受賞者です。

今日は時間がありませんが、高校の地理で地形図から断面図を作るのも簡単ですし、可視マップももちろんOK。何より特徴的なのが山座同定といって見えている山の名前を明らかにするための鳥瞰図を描くことができます。いつでもどこでも可視になるかもカシミールで調べることができます。今スマホで位置情報が把握できますね。位置情報を使い、自分が撮った写真をどこで撮ったかだけでなく、時間とシンクロさせて写真がどこで何時に撮ったのかもすぐにわかる。これについても地図センターの『月刊地図中心』で特集しています。

南は八丈島、西は京都、 一番の遠望は323km離れた和歌山県

こちらの会場から北西方面にどんな山が見えるのかCGを作ってみました。この会場は初めてで土地勘がありませんが、ギリギリ赤石岳がほんのちょっと見えますね。

せっかくですので方角別に可視マップを使って富士山が見える一番遠いところを紹介しますと、東は198km離れた銚子ポートタワー。一番遠いのは和歌山県の色川温泉富士見岳の323kmで、剣ヶ峰が真ん中に映った証拠写真は2001年9月12日の夜明け前に撮影されました。あの9・11の翌日です。それ以前は妙法山という少し手前で撮ったものが一番遠い写真だと思われていましたが、可視マップでほんのちょっと先からでも撮れると分かって現地で撮ってきました。色川からは日の出の時間にそこに行かなければ撮れず、車で1時間ぐらいですが道が荒れていて夜明け前に行くの

はしんどい。やっとなら2015年6月に新林さんというお坊さんが2枚目を撮影されました。その後、次から次へと撮る人が現れました。

南は計算上、八丈島ですが、なかなか証拠写真が撮れずにいました。黒潮がネックになるのです。暖流から水蒸気が上がり見通しが悪くなります。しかし黒潮が蛇行して冷水が発生すると相対的に海水温が下がり、水蒸気が減って見通しがよくなる。ある時期にそうなるだろうと予測して吉野さんという方が撮影されました。山を見るには海のこと考えなければならぬのが、島国日本の山岳展望の特徴かなと思います。

西は京都と滋賀県の境です。あまり明瞭とはいえませんが剣ヶ峰がかるうじて映っています。これで「京都から富士山が見えた」と言ってもよいのなら、福島花塚山からの剣ヶ峰でもいいじゃないかということです。花塚山の写真の方が明瞭だと思えます。

無電柱化の重要性

富士山の景観を巡る問題に移ります。東京日暮里の富士見坂からは1990年にははっきり見えていたのが、20世紀最後の年に左側の斜面を隠す建物が出来てしまいました。2013年5月10日に手前には個人マンションが出来てしまい、世界遺産登録が決まった運命の6月22日当日、6月なのに奇跡的に晴れ、マンションのせいで富士山が見えなくなったことが明らかになりました。

イコモスは「富士見坂からの景観は保護すべき大事なものだ」と勧告を出しています。大企業が大型マンションを作って見えなくなったのなら反対運動もしやすかったのですが、個人の小さなマンションがうんと手前に出来てしまったので、そうもいきません。しかしモノ好きはいるもので、「隙間富士」といってビルの隙間からなんとか見えないか必死に探して発見し、大喜びする人間もいます(笑)。荒川区ではちゃんと行政が後押しをし、ここに足を置けば隙間から富士山が見える、というスポット案内を作っています。

一方で電線の問題もあります。電線電柱は風景を台無しにするばかりでなく、緊急時に通行を妨げる等の問題があります。横浜市で幼い子が高齢者ドライバーの車にはねられて亡くなったという事故がありましたが、電柱があるために狭い道を歩行していた児童が車道側に出てそこでぶつかったんですね。命を守るという観点からも緊急に対応すべきではないかと思っています。

富士市に大淵という富士山と茶畑を撮る絶好ポイントがあり、そこに行く途中、富士大通りというのがありますね。お住まいになっている皆さんからすれば電線電柱と富士山は空気のような存在かもしれませんが、よそから来た人間から見れば「どうしてここに電線電柱があるの? なんとかならないの?」と思えてなりません。

富士吉田では富士見バイパスの一部で無電柱化工事が始まっています。もちろん静岡でも始まっていると思いますが、日本全体で電線電柱化の進捗状況はわずか1%。静岡県は相対的に上位のほうだそうですが数字としては微々たるものです。美観というのは人によって感じ方がさまざまです。電線があったほうがいいという人もいます。でも少し考えていただきたいなと思います。

富士山と〇〇をコラボさせる 「〇〇富士」の楽しみ

富士山は登ってもいい山ですが、遠くから眺めて楽しむこともできる山です。眺めるときも、富士山単体プラス何かとコラボして楽しむこともできる。ダイヤモンド富士の場合は太陽、パール富士は月、桜や紅葉はもちろん、高層ビルやタワーとの組み合わせも美しいですね。ダイヤモンド富士は、実は富士市や甲府市から見ることは出来ません。横浜東京の特権なんですよ。うらやましいでしょう(笑)。静岡県内では御殿場の龍ヶ岳でOKですね。本栖湖リゾートからも見られます。

御殿場市では田んぼに映るダイヤモンド富士も撮れます。御殿場の田んぼの畔に入らないと撮れない写真ですが、御殿場には田代という姓が多く、この畦も田代さんという方のお宅で、どうぞどうぞと快く入れてもらえました。

富士山の東側、山中湖はダイヤモンド富士の撮影メッカで、私が撮ったときも千数百名のカメラマンが来ていました。「ずいぶん物好きが多いんだなあ」と思いましたが、私もその一人ですね(笑)。地元ではダイヤモンド富士ウィークスと称し、場所を変えて何か所から連続的に見えることをアピールしていました。

横浜のマリンタワーからは、富士山頂の直径800mと太陽の大きさが一致する場所はどこかを見つける楽しさがあります。電車から撮る場合はダイヤを調べ、何時何分にここから見るとか、お台場の観覧車からは2月14日のバレンタインデーに富士山と一緒に撮ろうとか、富士山と何かを関連させてみる楽しみがあります。

ダイヤモンド富士が見える北限からは、太陽が小さくダイヤも小さくなります。南西側は300km離れた大峰山から、先ほど紹介した新林さんというお坊さんがライブカメラや気象情報などを多角的にチェックし、撮っています。箱根からは満月の「パール富士」が撮れます。

「トンネル富士」は東名高速にキロポストと目印がありますからカシミール3Dを使って何時にここへ行ってくれとドライバーに指示します。高速道路ですから走行中のわずかなチャンスを狙って撮る。いかに貴重な写真かがお分かりかと思えます。トンネル富士の魅力はアーチと富士山の対比の美しさです。右側車線から撮る場合はできれば左ハンドル車のほうがより右側に寄れるので、相棒には次に買うときは左ハンドル車にしてくれと言ってあります(笑)。

世田谷からは「額縁富士」、富士吉田では「鳥居富士」が楽しめます。北斎の桶屋富士というのが有名ですが、あれは富士ではなく南アルプスです。美術書には「昔は名古屋のあたりからも見えたかもしれないが、今は気象状況が変わって見えないかもしれない」とありましたが、昔も今も見えません。北斎は琉球からも富士山が見える絵を描いていますので信用できないわけですが(笑)、富士川サービスエリアで見えるフレーム越しの富士は北斎から着想を得たものです。探してみると似たようなものがいっぱいあって、清水駅前からも撮れます。

これだけは面白さが理解できないといわれるのが「消え富士」。東名の蒲原あたりからちょっとギリギリに見えて消えてしまう富士。実は富士山が見える極限の場所なんですね。消え富士の追求は私にとってのライフワークです。

飛行機から見る「機窓富士」は、どっちがわの座席かで大きく違います。せっかくよく見えても席が翼の上あたりだった、なんてこともあるので、事前によく調べておく必要があります。富士市には「路上富士」が見えない場所はないと思いますが、東京では貴重な楽しみです。新富士駅からは「ミラー富士」。そんな楽しみ方もあります。

見る者に力を与える「見力の山」

富士山は登ってもよい山だけど眺めて楽しめる山、見る者に力を与えてくれる「見力の山」。自分のワードで「みりよく」と入力すると最初に「見力」と変換されるくらいです(笑)。以前、NHKのラジオ番組に出演したとき、富士山の見方に

ついてラジオでどうやって伝えたらいいのか、手元の写真を見ながら苦労してしゃべったのですが、その後、私の勤め先にカセットテープに届きました。富士吉田にお住いの目の見えない方から、「ラジオを聴いてあの光景がよみがえった。今見ることはできないが、ラジオで使った写真を送ってください」と吹き込まれていたのです。ちょっと感動しました。私は見えることを前提に話をしたつもりですが、そうでない人にも富士山は力を与えてくれるのだと。つい最近も、卒業生から「富士山を見ると安心するのは富士山に見守られている気がするから」というメールをもらい、グッときました。

花塚山の前に北限といわれた日山のある福島県岩代町、今は二本松市になりましたが、旧岩代町では、町おこしのため富士山が見えることを活用したいと懸賞金を出したことがあります。町長さんは旧富士山頂レーダーの建物を譲ってもらえないかと陳情し、却下はされましたがそれだけの熱意をお持ちでした。

富士山は日本一の山ではなかった時代もありました。台湾の新高山。ニイタカヤマノボレが真珠湾攻撃の暗号になったことは有名ですね。世界各地には旧日本軍が〇〇富士と名付けた山があり、玉砕を受けたアッツ島にはアツタ富士があります。このときの隊長が千葉市出身で、アツ観音というのが富士山をかたどった台に立っています。しかもアツ観音は富士山に背を向けて立っている。観音が向いているのはアツ島の方向だったのです。

私は学校でも、基本的に眺めて楽しいということをお話してきました。日本人の3分の1が住んでいる場所から見る事が出来て、夏は誰でも頂上を極めることができる。冬はプロでなければ登れない専門性も持っている。そんな富士山の魅力を生徒に話しています。

あまり道徳的な話を持っていくのは好きではありませんが、平和で安全な国でこそ富士山を眺める楽しみがあり、富士山を見るということは、富士山に見守られていること。生きていくうえで富士山というのはありがたい存在であると思っています。ご静聴ありがとうございました。

＜講師プロフィール＞

1972年大学卒業後、42年間、高校に勤務。専門は社会科地理。2015年より(一財)日本地図センター常務理事・地図研究所所長。日本各地から富士山の見え方の研究をライフワークにする。2017年1月中旬、北限の富士山の証拠写真鑑定で全国的に話題なる。地図、産学官系の著作多数。最新刊『地図がわかれば社会がわかる』。

富士山世界遺産センター概要紹介



静岡県文化・観光部
文化局世界遺産センター
整備課課長

落合 徹氏

巨大水盤に映えるシンボリックな逆円錐形

田代先生から富士見の楽しみについてお話がありました。富士山世界遺産センターは本県議会から県知事から12月23日富士見の日を開館と正式発表されましたので、ぜひ覚えていただきたいと思えます。私自身は田代先生のお話にあった紙の地図が一番売れていた1980年頃、富士の高校を卒業しました。生まれも育ちも住まいもずっと富士です。

富士山世界遺産センターの場所は富士宮駅から西へ歩いて8分、浅間大社からも歩いて5分ほど。新東名の富士インターからは車で15分ぐらいの便の良いところです。逆円錐形で水盤に映る特徴的な外観で、鉄骨造り地上5階建て。高さは18.5mと鳥居より少し高いぐらい。敷地面積が7000㎡で延床面積が3400㎡です。

建物は西棟、展示棟、北棟の3つに分かれます。北棟には映像シアターや一般ライブラリーなど。展示棟は常設展示。西棟は研修室や展示室、事務室などの管理棟になります。

特徴的なのは逆円錐形の建物の前に広がる水盤といわれるプールのようなところです。深さが3センチぐらいで広さが2300㎡。おそらく全国でも有数の広さの水盤だと思われれます。正面から見ると、まさに逆さ富士のように見えます。こんな構造で倒れないのかとよく質問されますが、真ん中のコアの部分と両側の柱で支えます。建築に詳しい方はご存知だと思いますが、三角形のトラス構造は上からの力に一番強い工法で、建築基準法の1.5倍の強度があります。

疑似登山が体験できるスロープ展示

北館には富士山関連の書籍を紹介する一般ライブラリー、奥の方にミュージアムショップとカフェ、そして研修室となっています。展示棟の入口はスロープになっており、2階に進むと最新4K

画質の映像シアターがあります。260インチスクリーンで、曇った日でも富士山のきれいな映像を見ることができます。その奥の企画展示室は文化庁承認の展示室は『群青富士』のような文化財や美術品も展示できるようになります。

展示棟は1階からスロープで上がりながら、壁面に海越しの富士山から始まり、麓から樹林帯を抜けて最後に御来光と、富士山の疑似登山が体験できるように計画しています。一番上に行きますと展望ホールから実際の富士山が見えるというわけです。そこから順番に火山としての富士山、世界遺産のひとつのテーマである信仰の対象ともなった「聖なる山」、芸術の源泉「美しき山」、それから富士山は水が循環していますから「循環する水と生命」ということで富士山の自然を紹介し、最後に「富士山との創造的共生」とし、我々が富士山の自然とどう共生していくかをテーマにします。

5階に上がりますと、建物の形に対して斜めになっている方向が富士山です。富士山をまっすぐに見るために展望台が斜めになっています。さきほど田代先生のお話にもあったピクチャーウインドウといえますか「額縁富士」を楽しめます。

4階に降りると「聖なる山」ということで、信仰の対象となった富士山を見ることができます。3階に降りると「美しき山」「循環する水と命」「富士山との創造的共生」の3テーマを展示。屋外展示は、昨年大河ドラマ『真田丸』のタイトル文字を手掛けられた扶土秀平氏に、富士山のシンボリックイメージをお願いする予定です。「美しき山」のイメージは能の題材から。「創造的共生」では宝永噴火の火山灰が積もった形を見せて、我々人間が富士山とどのように共生してきたかを紹介できればと考えています。

目標来館者数は30万人

このセンターはユネスコとの約束で、富士山の保存管理、情報センターとしての機能、さらに深く研究して展示に活かすため、5人の研究員を採用し、研究を進めています。その中でセンターの事業の推進には周辺市町や山梨県、環富士山地域との連携、国内外のインキュベーターとの連携も重視し、現在は周辺市町との具体的な連携策について意見交換を進めています。

保存管理や情報発信基地のみならず誘客部分も重要で、開館に向けてテレビ新聞でのPRに始まり、HPやFBの活用、開館式もシンボリックに行い、清水港や静岡空港等で大きくPRしていく

ことも必要だろうと考えています。さらに研究員を通じて学会等での研究ネットワークを構築し、国内外に向けて発信したいと考えています。

来館者は30万人目標。国内においては人口集積地である中京関西圏、首都圏から世界遺産対象の企画旅行や教育旅行等を中心に呼び込んでいきたい。そのためにも、もう少し建物が整ってきたら商談会や内覧会等を活発に進め、地元観光業者の皆さまと手を携えて誘客に努めたいと思っています。

30万人という数字はなかなかハードルが高く、

昨年6月に先行オープンした山梨県の世界遺産センターの有料入場者は7万人程度と聞いています。工事の進捗状況は2月段階で出来高59%、3月までに65%、建物自体は7月末に完成予定です。今は模型で紹介していますが、逆円錐形の一番下が富士ヒノキで、4寸角で一般家庭の柱ぐらいあります。出来上がれば非常に見栄えがするのではと思っています。内装と展示が10月完成予定、12月開館というスケジュールでございます。

完成の暁にはぜひご来館いただけますようお願い申し上げます。



「伝えたい世界遺産 富士山の価値と魅力」



〈パネリスト〉

稲葉 信子氏(筑波大学大学院教授)
中尾 謙吉氏(JATA日本旅行業協会会長)
植田めぐみ氏(富士山女性写真家)

〈コーディネーター〉

大石 人士氏(静岡経済研究所常務理事、サンプロント21懇話会TESS研究員)

◆大石 田代さんの基調講演では、我々静岡県民にとっては空気のような富士山も、いろいろな角度から見たいという人がいらっしゃるんだなと思いました。落合課長からは、いよいよ世界遺産センターオープンということで、地域から情報発信できるものがようやくできたというお話でした。

今日お招きした3名のパネリストは、基調講演をお願いすれば1~2時間お話いただけるような

方々ばかりです。そこで最初にそれぞれ10~20分ほどお話いただき、その後ポイントについて討論を進めたいと思います。

ご承知のとおり世界遺産に登録されて4年になる富士山の価値や魅力を、もっともっと発信していかなければと思っていますが、それは必ずしも観光で人を呼び込むだけでなく、富士山という非常に価値あるものの意義をもう一度みなで考え直

し、後世あるいは広く世界に伝えていくことが大事ではないかと思っています。稲葉さんは世界遺産登録には当初から関わっておられ、いい面もそうでない面もよくご存じだと思います。よろしくお願いします。

自然遺産と文化遺産の境界領域にある 最も優れた存在

◆稲葉 筑波大学の稲葉です。筑波大学には世界



稲葉 信子氏

遺産専攻という珍しい大学院の専攻学部があり、実は卒業生がこちらの地元のお役所に勤めており、今日も来ていると思います。

私自身はも

ともと工学部建築学科を卒業し、大学院の研究テーマが日本の建築の歴史だったものですから、平成3年に最初に就職したのが文化庁建造物課というところに文化財調査官として採用されました。その翌年の平成4年に日本が世界遺産条約を批准したことから世界遺産登録をお手伝いすることになり、法隆寺と姫路城の推薦書作成から始め、以来、世界遺産条約の仕事に長く携わってまいりました。

本来、日本の文化財が専門でしたが、文化庁在職中は国際関係の仕事の比重が大きくなり、2000年にはローマにある文化遺産に関する国際機関へ出向。2年後に戻り、文化庁関係の独立行政法人に移って国際協力の仕事—アフガニスタンのパルミヤン遺跡調査などを手掛けました。

そんなわけで、これまで世界遺産条約をきっかけに海外で議論されている文化遺産や自然遺産の在り方や観光との関連の在り方について日本に伝え、また日本の中で何が起きているかを海外に伝える仕事をし、今は教員として学生に伝える仕事もしております。

富士山の世界遺産登録時にはいろいろな取材を

受けました。地元メディアはよく「富士山は自然遺産でダメだったので文化遺産として登録されたんですね」という質問をします。「えっそんな事実はないのに、なんて不勉強なんだ!」と思わず電話を切ろうかと思ったのですが(苦笑)、富士山は日本のシンボルというだけでなく、富士山こそ世界遺産としてあるべきものであり、世界遺産であってほしいという思いが日本人のみならず海外の人にもあったのです。実際、日本国内では当時、環境庁においては自然遺産として検討し、文化庁では文化遺産として検討を重ねていました。富士山は両方で登録が検討されていたということです。

世界遺産登録を目指すきっかけを作ったのは静岡新聞社の事業でした。1995年に静岡新聞社主催で国際会議が行われ、自然遺産と文化遺産の専門家を呼んでかなり大規模な国際議論がなされました。自然遺産としてみたとき、富士山は火山としてアジアの中でも際立つ特徴があるわけではないが、文化を象徴するアイコンとしての自然としてとらえたら、このような山は世界に例がないという。自然遺産でもなく文化遺産でもない、その境界線にある。実はこういう境界線上にあるものを世界遺産委員会も登録したいと1992年に宣言しており、94年に指針を採択していました。自然遺産と文化遺産の境界領域にある最も優れたものとして富士山があるという認識がすでにあったのです。

それ以来、富士山を世界遺産にするとき、自然遺産か文化遺産かは日本のみならず世界中で、環境と文化の境目で議論され、世界遺産委員会では〈文化的景観〉という地理学上の言葉を使って人間がどれくらい自然の象徴とかわかってきたかを議論しました。

富士山の推薦書を作っていく過程では、まずは信仰と芸術の対象であるという柱を置きました。世界には信仰の対象となる山はたくさんあり、芸術の源泉になった山もたくさんあります。ある特定の先住民の暮らし、またはセザンヌが描いた山というようにある特定の時代や人物にとって特別な山というのはたくさんある。しかし富士山というのは古代から現代にいたるまで、なおかつ国際的にも日本の象徴として文化面でも認知されてい

る極めて稀な存在だ、という点を推薦書に盛り込みました。

世界遺産委員会では文化遺産ではあるがその土台に自然があり、保存状態のモデルでもあるべきとしています。世界の専門家は、これだけ文化的影響力のある自然を具体的にどうやって保全し、地域振興のモデルにしていくのか、大変注目しています。

静岡の強みは海から見る富士山

◆中尾 まず最近の観光動向についてお話しします。



中尾 謙吉氏

旅行会社によって地域別に良し悪しはありますが、テロ等の影響で日本人が海外旅行に行かなくなった時期が続きましたが、やっと上昇傾向になっ

てきました。国内旅行は「まあまあよりちょっと上ぐらい」という数字。京阪神ー京都・奈良・UFJ等が最上位を占めています。九州も復興によって上昇し、熊本方面への旅行も伸びています。中部エリアは今年、浜松に大河ドラマ館、名古屋にレゴランド、滋賀で彦根城410年祭等が目白押しで観光需要が見込まれます。とくに静岡浜松は直虎さんの視聴率もよさそうなので期待しています。

訪日旅行は「まあまあ」という数字ですが、実は不思議な現象が起きており、訪日旅行者数2400万人という過去最高を記録していますが、宿泊施設の稼働率は落ちている。旅行会社の扱いもそれほど伸びていない。民泊やバス移動等が原因とも言われていますが、客数が伸びても現場であまりお金が落ちていない状況が続いています。

長年の懸案としては、ゴールデンルートの人気が集中しているため、地方にも行ってほしいということ。去年10～12月ぐらいから、大都市集中から地方分散へという傾向が出ており、明るい情

報では中部エリアでは昇龍道などの縦コースや金沢～白川郷～高山～松本の三ツ星ルート等も増えてきていました。忘れてはならないのは、訪日外国人も団体旅行ではなく個人旅行が増えてきているということ。これからの取り組みも個人旅行にどう対処していくかが大事だと思われます。

登山旅行は最近、女性を中心に若い登山者がかなり増えています。9～11月に大雨や長雨があたりして天候によって需要が食われている年もありますが、天候さえよければこの先も順調に伸びると思います。富士山に関しては世界遺産登録年の2013年が最高集客数で、2014～2015年に減り、昨年ようやく盛り返してきたという状況です。

富士山観光の現状と課題についてお話しします。まず修学旅行ですが、全体で見ると京都奈良が圧倒的に強い。ご存知のとおり今の修学旅行は体験型が主流で、中学では70%、高校でも60%が自然、スポーツ、料理、陶芸、農業体験等が出来る場所を希望します。静岡県も全体で見れば修学旅行客は来ていますが、富士山周辺では山梨側の山中湖や河口湖のほうが有利です。

一方、訪日旅行者にとって富士山は日本観光では不可欠なものです。アジア、欧米、どこから来ても旅行会社に聞くと「まず富士山」です。東京から京都奈良に行くまでのゴールデンルート上に富士山があり、日本の国立公園のインバウンド545万7千人のうち257万7千人が富士箱根伊豆を占めます。おそらく富士山と箱根が中心だと思われます。つまり圧倒的に富士山は強いということですね。富士山五合目から箱根、夏は五合目と果物狩り、冬季は二合目のグリーンパ。雪遊びのできるグリーンパは相当人気があります。

雪に関して一言言えば、青森の八甲田や北海道は、冬はインバウンド大変賑わっています。昔は雪＝暗いというイメージだったんですが、逆に雪のおかげでインバウンドが盛況で、我々にとっても嬉しい状況です。

旅行会社でインバウンドをやっているものが注目しているのが三島です。三島スカイウォークが出来て食べ物がおいしくて富士山の景観も抜群で、近くに柿田川の清流もあります。非常に素材がそろっており、旅行会社では三島と他を連携してツアー商品ができればいいなと思っています。

もう一点、山梨が「山」ならば静岡は「海」を売るべきです。土肥から清水港へのクルーズがありますが、海から見る富士山は本当に売っていきたいですね。三保の松原もそうですが、静岡県が強みは海から眺める富士山です。願わくは、山梨県と静岡県がタイアップし、観光周遊ルートをつくり、両県で力を合わせ、これでもかこれでもかというくらい富士山を見せる努力をしていただきたいと思っています。

若い頃富士山に登ったとき、びっくりしたのは頂上のトイレがとにかく汚かったことでした。日本の宝である富士山がこんな状態でいいのかと思ひ、国内でさまざまな取り組みを行っているNPO法人等を探し、個人的に協力させてもらいました。JATAのほうに社会貢献基金ができたので、富士山に寄付すべきだと提言し、頂上にバイオトイレを寄付させていただき、平成13年度に富士山バイオトイレ設置プロジェクトで、400名でバイオチップを汲み上げました。

山に登る時「山を制覇する」「踏破する」という言葉がありますが、私は個人的にはいかがなものかと思っています。感謝の心をもって登らせていただくという気持ちが、とくに富士登山では大事ではないかと。富士山世界センターが完成したらきちんと説明を受け、1合目から登っていただくということを大切にしたいと思います。

写真家が見た富士登山情報の脆弱さ

◆植田 私はもともとスノーボードのカメラマンをやっていました。出身は榛原郡吉田町ですが、父親が長野県出身だったことから高校生からスノーボードをやり、プロにはなれず、カメラマンを目指しました。スノーボードは冬の時期限定なので、夏、何をしようかと思ひ、静岡出身のカメラマンとして静岡を代表するものはないかと探し、たどり着いたのが富士山でした。ただ、一度も富士登山経験がなく、登ったところで天気が悪ければ写真は撮れない。だったらいっそのこと富士山に住み込んでしまおうと、2010年から頂上の山小屋で夏の間、働くことにしました。

富士山の頂上生活は想像以上に過酷で、最初の年は写真を撮る余裕はほとんどありませんでした。

まず朝起きるのは2時。御来光を目指して来るお客さんがほとんどですから、皆さんの食事の準備をし、お客さんを受け入れ、あっという間に夕方になり、19時には消灯です。とても写真は撮れず、お風呂はないし化粧も出来ないし、砂埃の中で服も着替えられない辛い生活でしたが、毎朝、御来光の時だけは皆さん全員外に出て御来光を拝み、カメラを向ける。その時間だけ静寂が訪れ「ここに来てよかった」と心底感動します。太陽は毎朝昇るし当然のことなのに、なぜこんな感動するんだろうと。日の出だけでなく、雲も、モコモコと幻想的に見えて地図や物体に見えて楽しいのです。

1か月後、やっと降りられると思って降りたその日に、もうあの景色が二度と見られないのかと、すぐに戻りたくなりました。それだけ魅了される山だったのです。

2年目はカメラ機材を持って毎日撮ることが出来ました。登山者にも目を向けてみると、富士山に登ると人はこんなにも達成感を得るのだとわかりました。そんなに気持ちよくみんなが登るなら自分も登ってみようと、どんどん富士山にのめり込み、週に2～3回は登るようになりました。

世界遺産登録後は観光で来るお客さんが増えました。サンダル履きやTシャツ姿で平気で登る人もいました。晴れている日なら問題ありませんが、天気が悪いと本当に危険です。富士登山の経験がある方ならお分かりだと思いますが、雨の日は死人が出てもおかしくない過酷な場所になります。ペットボトルが宙に浮いてクルクル回ったり、石が飛んできて顔に当たってケガをしたり、這いつくばって歩いても前に進むことができないこともある。登ったことのない人や晴れた日しか知らない人は、そういう現状を知らず、情報発信もされていないと気が付きました。

親子連れで登山していて、お子さんが歩きたくないと泣き叫んでいるのに「頑張れば登れるから」と無理やり引っ張る親もいます。よく見るとお子さんは高山病にかかっている吐きながら登っています。大人でも、体調が悪くなっても仲間に迷惑をかけないようにとガマンして登ろうとする人もいます。また、よく使い方がわからないのにストックを持ってツンツン突きながら登っている人がいます。突いたら石が転がって「ああ転がっちゃ

った、ま、いいか」と。実際、転がった石がどうなるのかわからないはずはないと思いますが、どんな惨事になるか想像しない人がいます。

最初の頃は写真を撮ることに一心でしたが、途中からブログを書き始めました。子どもの登山に関するマナーや持物について、また天気が悪い日は富士山がどういう状態になるか動画に撮ってUPしたのです。それをYAHOOニュースが取り上げてくれて、一日に10万以上のアクセスが来て、「子どもと一緒に登山したいが何を持っていったらいいか」「子どもと登山したときに子どもが泣き叫んだけど高山病のことは知らなかった」というメッセージをたくさんもらいました。

よく考えたら自分もインターネットで調べた時「登山道は4つあって3つは静岡側にある」とか、登り方を調べても「8合目あたりで一泊して御来光を見て降りる」で終わりでした。実際には頂上まで登れない人はたくさんいます。高山病になったり天気が悪くなったらどうしたらいいのか、登る前にどこでどういう買い物ができるのか、どこで泊まれるか、温泉はあるのか、登りと帰りまで登山道を変えたいときは云々、富士山周辺の情報があまりにも少ないと実感しました。

そこで、御殿場口の五合目でこれから登山する人に口頭で案内ができないかと考え、御殿場口五合目で働くようになりました。御殿場口からの登山道は大変ハードで、砂走で登ることができるのはエキスパートばかりです。しかしマイカー規制がないのは御殿場口だけなので、とりあえず御殿場口に来て、登山道入り口って書いてあるからとりあえず登ってみるとい人が多い。他に登山道が3つあることを話すと驚かれます。五合目は天気がよくても頂上へ電話をすると「とても歩ける状況ではない。下から登らせるなよ」と言われることもあります。それは私が個人で電話をしたからわかることであって、途中の山小屋や違う登山道ではわからないと思います。インターネットでも、すべての山小屋や登山口からの発信情報を網羅しているサイトはほとんどありません。

登らなくても富士山の状況を知りたい人はたくさんいます。個人の力ではありますが、愛する富士山のお役に立てるならと山小屋の一部をお借りして生活し、情報発信していこうと考えています。

環境保全から考える登山者数問題

◆大石 世界遺産登録され、富士山のブランド価値が高まり観光客も増えて来たということですが、富士山の環境保全で進んだ点と課題点についてはいかがですか？

◆稲葉 世界遺産になる前、現地に調査する人と一緒に回った時に3つの指摘がありました。一つは登山者の数。具体的には五合目から登る人の数と登山の仕方。弾丸登山で行く事もあれば1泊することもあると思いますが、適正な登山者数が決められるかどうかも含めて考えてほしいということです。

もう一つは信仰の対象・芸術の源泉となる景色や景観を守るのに、現在の日本の法律で足りるかどうかを考えてほしいということです。

3つめは信仰の対象であり芸術の源泉である古代から現代から日本の文化に影響を与えた自然の価値をどうやって伝えられるかということ。この4年で富士山のアクションプランや保安全管理計画を、山梨静岡両県の県庁職員が中心になって計画し、その第一弾が昨年提出され、一定の評価を受けました。しかし計画倒れになってはいけません。

たとえば世界にはいろいろな山があります。オーストラリアの荒野、あるいはアメリカの自然公園にあるような山は広く裾野まで世界遺産です。富士山は東京から京都に行く間にあり、古代から人が訪ね、今は市街地が裾野の途中まで迫っています。その中の構成遺産や富士の景観をどう保全するか。三保の松原や本栖湖等の観光計画を進める上で、富士山の景観を守るためには何が必要か。都市部に近い、しかし信仰の対象であり芸術の源泉である象徴としての自然をどうやって維持していくのか世界中が注目しています。

◆大石 登山者数の問題はいかがでしょうか？

◆稲葉 適正値をはかるのは難しいですね。信仰の山に登るとき、信仰を阻害するような数があるのかどうか。現在、登山者数は土日と平日に差があり過ぎるため、土日のピークカットも含めて検討しているところです。

◆大石 我々にとって富士山はあまりにも身近にあり過ぎて、信仰の対象や文化的価値があるとい

う意識があまりないのですが、そういう点もしっかり伝えていかなければいけませんね。

着ぐるみ姿や買い物袋持参の登山者

◆植田 ほとんどの登山者は信仰や文化よりもアクティビティといますか、とりあえずアトラクションの一つと考えている人が多いですね。最近の登山者の服装や持物等を見ていると「面白そうだから登ってみよう」とか「なんとなく来ちゃった」という人が増えているような気がします。

着ぐるみ姿で登山する人もいます。SNSで着ぐるみの日というのがあるらしいのです。アウトレットで買い物をして、買い物袋を持ったままアウトレットの一部のように登る人とか、女装する人、スーツ姿の人もいました。SNSでアップして「楽しいよ〜」「面白い場所だよ〜」と発信する人が多く見受けられます。

◆大石 そういう人たちに、富士山の魅力をどういった形で伝えたらいいと思いますか？

◆植田 登山される方には最低限のマナー、服装、安全をお伝えしたいですね。登山というのは頂上だけがゴールではなく、途中であきらめる、引き返すこともひっくるめて登山であるということ。



植田めぐみ氏

自分は写真家として、近くまで来れない人、登れない人にも見せてあげたい。「登る」「見る」「見てもらう」を全部ひっくるめて発信していくことで、少しでも富士山の魅力を伝えていければと思います。

◆大石 インバウンドの方々への情報発信も重要ですね。

◆中尾 簡単に登れるという意識が相当強いような気がします。いざ登ってみると高山病になる人が必ずいて、ハラハラドキドキのときもありますので、センター開設をきっかけに、とくに高山病

の怖さをとこかでアピールしてもらえたらと思います。静岡県も山梨県も登山者向けのDVDを作ってくれていますが、登山直前に見せても遅いんですね。もっと事前に見せる仕掛けが必要ですし、マスコミは登山シーズンには“楽しい楽しい富士登山”のイメージばかりを流すものですから少しギャップがあるように思います。

服装の問題ですが、旅行会社は命を預かっていますので、きちんとPRしています。高山病になっても登りたいという人は必ずいますので、我々は絶対にやめろと言います。個人登山者でも誰かにきちんと引率してもらおう形ができないかと思います。

世界遺産登録は、 東京を通さず地方と世界をつなげた

◆大石 富士山と地域の関わり方についてはいかが



大石 人士氏

がでしょうか。構成資産を持っている地域、持っていないくても仰ぎ見る富士山を大切にできる地域、それぞれのコミュニティと富士山の関係という

ことになると思いますが。

◆稲葉 世界遺産委員会でも地域コミュニティという言葉をよく使います。コミュニティの役割は国によっても違いますし、田代先生の講演では富士山は全国区だというお話もありました。文化庁が推す日本遺産の地域の総合的な文化や自然を伝えるという目的は、世界遺産の規模を伴うものであっても同じです。その際、地元が売りたいと思う勝手な思い込みと、観光客の望む勝手な期待をすり合わせることは難しいですね。

確実に言えるのは、世界遺産登録は、東京を通さずに地方と世界がつながったということです。世界に発信できる力を地方が得た。と同時に世界に発信する責任も持ったということ。ユネスコの

世界遺産センターが今、最も大きくプロモーションしているテーマは文化と自然の境界領域です。その2つが融合しているということ。まさに富士山はその中心にあります。そのことをぜひ真ん中にとらえていただきたいですね。

筑波大学の世界遺産専攻では文化遺産と自然遺産の教員がそろっています。向こう4年間で文化と自然のリンケージ—連携を考えるプログラムを、アジアを中心に進めています。去年は農業遺産でしたが、まさに今年は「聖なる自然」がテーマ。そういうことを中心に据えていきたいと思っています。

地域発の富士山の魅力を わかりやすく伝えよう

◆大石 世界遺産になったことで富士山の何が変わるのか、より価値を伝える仕組みを伝える必要があると思います。中尾さんはいかがですか？

◆中尾 植田さんの富士山の情報発信に力を入れたいという気持ちは私もよくわかります。登山をやっていればどこで温泉に入れるのか、どこでご飯が食べられるかといった情報も欲しい。我々はプロですからそういうのを調べていくんですが、個人でも利用しやすい情報発信基地がほしいですね。センターに期待しているところです。

富士山周辺の農産物や海産物が買える場所が紹介できれば、地域コミュニティとかかわる人も増えてくるのではないかと思います。日本の総登山人口は500万~1000万人といわれ、旅行会社の取り扱いは1割程度。残りをどう導いていくかが課題です。ぜひ地域がメリットを得るような状況を作っていただければと思います。

私自身、富士山にバイオトイレに関わってから相当いろいろな本を読みました。知れば知るほど深いというか、富士山は一つの学問ですね。とくに山梨県と静岡県の小中学校には富士山のことを学ぶ授業をやってもらって、そこを起点に富士山の持つ価値を発信できればと思います。

◆植田 ほとんどの方は富士山が見たいという気持ちをお持ちで、新幹線で通過するときも飛行機に乗っているときも富士山を見ます。実際地元に住んでいる人はよくわかると思いますが、夏のシ

ーズンに富士山が見える時間帯は限られます。早朝8時前ですね。夏は気温が高いので8時を過ぎると雲が出て、夕方まですっぽり隠れてしまう。ホテルに泊まった観光客はチェックアウトをしてから富士山を観に行く人がほとんどだと思いますので、朝、朝食の前に見に行かれたらいかがですかとアドバイスしたり、富士山が見える場所を早朝開放する等、せっかく訪れた人々に富士山が見えなかったとガッカリさせない工夫をしてほしい。富士山の特性に沿った動きを各地域がすることも大事ではないかと思っています。

◆中尾 世界遺産センターは楽しい場所であってほしいですね。堅苦しくなく、明るさを大切にしてほしい。外国人は日本の漫画が好きな人が多いので、漫画で簡単に案内できる工夫もどうかと思っています。富士山自体もすごいですけど、富士山を守ろうとしてきた人たちを忘れないでほしいと思っています。NPO法人などで相当頑張っておられる方がいます。そういう方々への感謝の心を忘れないでいたいと思います。

◆稲葉 現地に調査に来た専門家から、浅間大社や忍野八海や白糸の滝といった世界遺産の構成要素は、それぞれの個別の自慢で終わっていると指摘されました。富士山という本体を忘れてはいないかと。富士山と個別の構成遺産との関連をどういうふうに説明していくか。世界遺産センターで個別に点在したものをつなげる発信を期待しています。

◆大石 最後に基調講演の田代さんからご感想をいただきたいと思います。

◆田代 いろいろな情報があり過ぎてパンクしそうなのでゆっくり整理したいと思いますが、せっかくですので2点ほど。一つは富士山の景観を守る意味でも無電柱化をぜひ進めていただきたいと思っています。

また、富士市から見た富士山はどういう特徴があるのか、各地域から見た富士山に個性があるのか、それがわかるような説明を作っていただきたい。山梨から見る富士と静岡から見る富士が違うように、静岡でも場所によって違います。そんな違いを外来者にもわかるように多言語表記を含めた資料を作っていただきたいと思っています。

◆大石 ありがとうございます。

ラジオマイトーク

【平成29年4月9日放送】



地域の交通安全センター

おお しお ひで き
大塩秀樹氏

(株)黄瀬川自動車学校
代表取締役

▽モットー ご縁を大切に

▽趣味 読書、ゴルフ

▽出身地 沼津市

〈お話のポイント〉

◆人を育てることを一番大事にしています。昔の教習所は教えてあげる、上から目線、厳しいことは当たり前でした。人を育てることは最終的に教習者がたくさん来てくれるという発想から人材育成に取り組んでいます。

♥地域の交通安全センターとしての取り組みにも積極的です。毎年、教習コースを1日開放し、面白自転車を用意して、2千人以上の家族連れに楽しんでもらっています。自転車の交通安全教室も行います。

◆企業向けには、事故を起こした、違反が何度

も続いている、従業員を対象にした再教育を行っています。運転適性検査を行うと、その結果と事故分布がかなり比例することがありますので、企業の管理部門にアドバイスを行っています。

♣3月12日に道交法が改正され、準中型免許が新設され、18歳から取得できるようになりました。運送業界の運転手不足の解消につながります。75歳以上の高齢者の免許更新も変わり、認知機能検査で結果が悪ければ、医療機関等で再検査を受けないと更新教習を受講できません。

ラジオマイトーク

【平成29年6月4日放送】



キッチンライブで出来立て提供

み わ とし き
三輪俊城氏

(株)司旅館ホテル
沼津キャッスル代表取締役社長

▽モットー だますよりだまされる

▽趣味 読書、音楽、ゴルフ、
麻雀、詩吟

▽出身地 三島市

〈お話のポイント〉

◆昭和34年から湯河原で温泉旅館を行っていましたが、平成17年に売却しました。司旅館は料理を売り物にしていましたから社名に残りました。ホテル沼津キャッスルは開業32年になります。

♥料理は出来たてが一番ということで、プライダルではキッチンライブといって、その場でお寿司を握り、ステーキを焼いてお客様に提供しています。人数が多いと大変ですが約束どおりのサービスを行っています。

◆4年前に駅北口に県の施設ができ、ホテルも

進出し、客室の供給も増え、どうなるかと思いましたが、現在は中国からのインバウンドが続いていて盛況です。中国人観光客の6、7割は若い女性です。

♣沼津駅から港湾までの道路を海のものを使う店がずらり並ぶ街になれば魅力が増えます。また、沼津市には60kmの長い海岸線がありますから、この海岸線を生かしたマリンレジャーの町にしたら素晴らしい地域になります。沼津市全体のことを考え、外へ向かってアピールしていきたいです。